



# ハンディ3Dスキャナーは、 自分に合った福祉用具を作る ために使用します。

## その他、人体計測、リハビリ、整形 美容、医療器具等の 3D 測定に利用

非接触・マーカ―不要のハンディ3Dスキャナーは小型で、高精度・高速にて被写体を計測します。顔であれば、10秒でスキャニングできます。計測と同時に自動で、カラー画像と3Dメッシュモデルを作成します。片手で持ちながら簡単に操作できるハンディ3Dスキャナーは、被写体の隠れた部分も容易に計測できます。レーザー光を使用していないため、目や肌に安全です。医療での使用例としては、人体計測、口腔外科、せき髄の変形診断、整形外科などです。身体の動きや顔の表情を3D化し各種の解析に利用できます。

### ハンディ 3D スキャナーの利用例:

**整形美容**：患者（例えば顔）の術前の姿を 3D 計測します。この計測モデルに、術後の予測のモデルを作成します。これで自分がどう変貌するのか、術前に確認できます。患者にとっては、インフォームド・コンセントになります。

**人体計測**：術後の腕や足はリハビリを通して、どのように改善されるのか、数値（3次元モデル）で確認できます。

**体の動きを計測**：静止せず動く体の一部を計測し、解析できます。解析データは、福祉用具の製造にも利用できます。変化する人間の体（顔、手足、背中）を 3D 計測し、移動量（変化量）を解析できます。変化量から最適な福祉用具を製造できます。

**医療診断**：脊髄の病気（脊柱側弯症など）をより初期段階で見えます。患者の背中をスキャニングし、脊髄のゆがみを測ることができます。脊髄のゆがみを三次元で診断することで、進化の状況を視覚的に確認できます。

**義足等の製造**では、従来特別な技術が必要でしたが、3D スキャナーを使うことで患者に合った義足や義手を作成できます。製造の時間とコスト軽減につながります。

**後遺症のケア**：やけどを被った患者にとって、後遺症は日常生活において大きな負担になります。3D スキャナーで患者の体をスキャンし、オーダーメートの保護マスクを作ります。

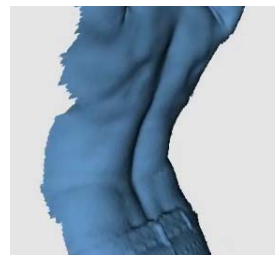


術前



術後

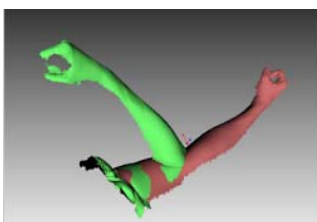
整形美容に利用：患者が術後、どのような姿に変わるか 3D モデルで予測できる。



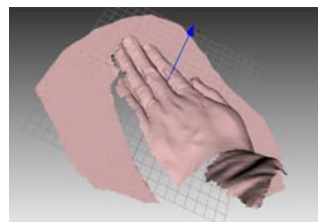
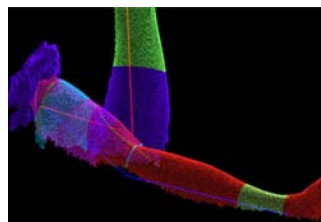
脊髄の動きを調べる。



患者に合った福祉用具を作成する。



リハビリで、どのぐらい腕の動きが戻ったか調べる。



手のむくみを調べる。指の動きを見て回復度をチェックする。

